



# 夢と活力を 未来につなぐ

## 設立3年目

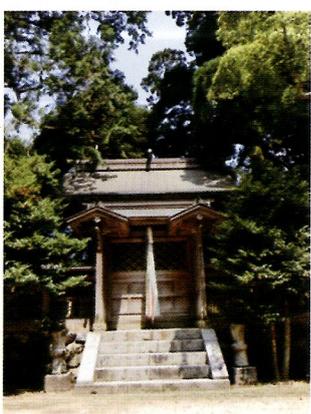
### 天見地域まちづくり協議会 総会開催

平成27年2月に設立、住民が力を合せて様々な地域課題の解決に取り組んでいく「天見地域まちづくり協議会」。昨年度は、地域を巡るウォーキングイベント(上写真)や、南海バスを貸し切ってイズミヤへ行く買い物バスツアーを開催し好評を得た。また、市の総合計画において、天見地域の「地域別計画」を検討し、市で策定された。天見地域は、清水・上岩瀬・下岩瀬・上天見・下天見・流谷の6つの地域を結び付ける活動を基本としている。

来る5月28日(土)には、第3回となる通常総会を開催する。平成28年度は、地域別計画に基づいて、①自然や歴史を活かしたイベント、地域の魅力発信、②教育環境の充実支援、子育て世代の移住促進、③高齢者を支える仕組み、農林業の販路拡大や活性化などの取り組みを提案する。これらを通じて、小学校や青少年福祉など、全29団体との連携がさらに深まり、様々な地域課題が解決に向かうことを期待したい。

### 蟹井神社には

かにいじんじやは、天喜2(1054)年の創建と伝えられ、祭神は神武天皇、応神天皇、神功皇后。創建当時は「甲斐神社」と呼ばれていた。南北朝時代には、楠氏一族が戦勝を祈願したとも伝えられているが、延宝4(1676)年の火災で焼失。すぐ近く为天見川に、「蟹井の淵」があり、これが社名の起源といわれる。毎秋に行われる提灯行列では、宵宮の夜8時頃、見坂、茶屋出、島の谷の3つの地域から、氏子たちが灯りをともした何本もの高張提灯を掲げて出発し、祇園囃子を歌いながら参拝する。無病息災、家内安全を祈願する古くから行われている伝統行事である。



### 本紙編集ボランティア募集

人の話を聞くのが得意な人、記事を書ける人、カメラで撮影できる人など。経験不問で募集中。詳しくはメールで、terumi.oi082@gmail.com まで。

# 天見小の今

読者の多くがご存じのとおり、天見小学校は、平成12年度から「小規模特認校」となり、各学年20名まで、市内のどこからでも入学・転入学ができる。

この制度により、一時は50人台まで減った児童数は、89人まで回復した。しかし、平成28年5月現在の児童数を見ると、合計65人となっており、予断を許さない状況が続いている。

そこで、引き続き、地域ぐるみで小学校を盛り立てていくべく、現在の様子を記事にまとめた。

学年	児童数	内、地域の児童
1年	4人	( 4人)
2年	15人	( 1人)
3年	10人	( 0人)
4年	14人	( 4人)
5年	6人	( 2人)
6年	16人	( 2人)
合計	65人	(13人)



過去、地域在住の入学者が平成26年度に0人、27年度に1人となることが判明した時、何とかこの難局を乗り切るうと、住民と学校が協力して働きかけ、8人と15人の入学者を確保できた。やはり地域外に、天見小の魅力を積極的にアピールしなければ、児童は増加していかないようである。

ただし、これに伴い、天見地域在住の児童は、全体の2割となっている。そこで、近年では、11月の「オープンスクール」、12月の「クリスマス会」を開放し、天見小に関心のある家族の見学や参加を広く呼びかけている。

## ■オープンスクール

オープンスクールは、11月の土曜参観の午後に実施されている。

オープニングで、歌や和太鼓演奏を披露した後、縦割りの班による児童会活動「天見小まつり」が行われる。



これまで、天見らしい木の葉やドングリ、木の枝や竹を使った「お店」を前・後半に分かれて児童が運営し、来場者を楽しませてきた。

また、このイベントでは、学校運営協議会やPTAも、児童の縦割り班と並んで「お店」を担当しているため、地域住民の協力が欠かせない。

昨年、学校運営協議会は、「丸太切り体験」や「竹筒てっぽう」、「竹ぼっくり」などを担当した。



一方で、PTAによる出店では、「通路（遊歩道）見学ツアー」が人気となっている。

## ■クリスマス会

クリスマス会は、12月の第1もしくは第2土曜に実施されている。

学校運営協議会委員の中浦氏が協力し、毎年、クリスマスツリーの木を用意され、参加者全員で飾り付けする。

また、主な出し物は、学校運営協議会とPTAが担当している。

学校運営協議会の定番は、「おもちゃ・せんざい作り」。準備作業は大変のことだが、児童からは、つくのも食べるのも大好評となっている。

最近では、自宅で餅をつくこともなく、幼稚園や保育所などでの経験が少しある程度。食べる機会も少ない。



一方、PTAは、「音楽あそび」や「ポトル銃作り」を企画し、青少年指導員の協力による「バルーンアート」や「紙のブーメラン作り」なども行われる。



いずれの活動も、過去には「天見小学校を考える会」として、地域とPTAが協力してきたもので、近年では学校運営協議会が発足し、小学校と地域との連携をさらに深めている。

岸勝彦校長（取材当時校長・平成28年3月で退任）によると、イベントで盛り上げるだけではなく、日頃の学校運営や授業が大切であり、児童たちの普段の様子を見てほしいとのこと。

学校見学などは、オープンスクールやクリスマス会に限らず、事前予約をすれば随時可能。まずはお電話で。

### ■ 体験活動

小学校の付近にある坂元氏の田んぼで、1年生は「どろんこ遊び」、5年生は「米作り体験」を実施している。



この体験で、生まれて初めて「泥」の中に入る児童も多いとのこと。はじめはおっかなびっくりだが、そのうち顔にまで泥を付けて楽しむ姿に。



いまどきの小学生にとって、田植えや稲刈りは、貴重な体験。少しの面積とはいえ、米作りの大変さを実感しているようである。

他には、山元氏の畑を借りて、野菜づくりにも挑戦している。教科の学習に関係するジャガイモやダイコン、タマネギを栽培しているとのこと。



また、天見を代表する体験活動といえば、やはり「林業体験」となる。5年生では、社会科で農業や林業を学習することもあり、中浦氏の指導を受けながら、実際に立っている木を切って倒す「間伐」を体験している。



## ■縦割りの班活動

異年齢集団による縦割り班活動のビッグイベント「てくてくテリング」。小規模学校ならではのきめ細かな地域密着の特色がみられる。隔年で、天見地区と千早口地区を交互に巡り、史跡や自然を観察する。



天見地区では、安明寺・南天苑・出合の辻・蟹井神社・八幡神社・十三仏・鳥地獄・天見川の河原などを巡る。

千早口地区では、地藏寺・御所の辻・松明屋・薬師寺・塞ノ神・山からのおくりもの屋・大地の里友邦などを巡る。どちらも見物にはなく、地域住民が説明役となり、より身近に感じる工夫がされている。

説明役は、学校運営協議会の協力により人選されているが、人員の確保が難しいように聞く。

この「てくてくテリング」は、過去、半日の児童会行事であったが、地域からの意見などもあり、友邦でママドでご飯を炊くの見学して、そのご飯でおにぎり作り体験をして食べた一日の行事になる、天見なら八幡神社の広場でコンロやガス、大鍋を借りて汁もができるなどの意見から、今では、1日扱いの学校行事となっている。



すでに8割の児童が地域外からの通学者であるため、この機会に天見のことを知りたいという家庭、保護者の参加も多く、児童と同時に保護者への啓発の機会ともなっている。

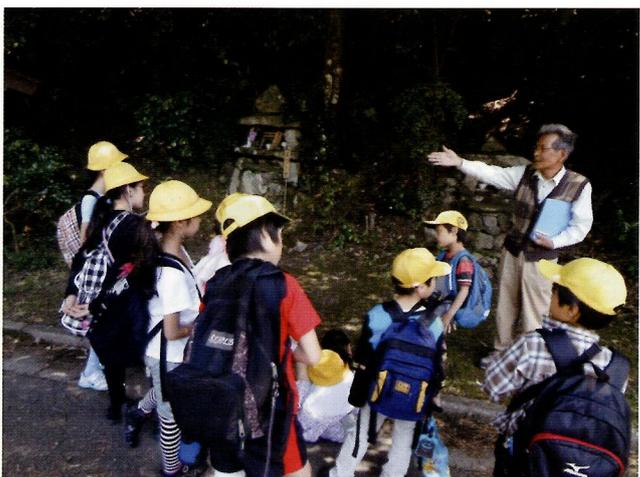
## ■少人数による指導

天見小では、体育や音楽に加え、生活科や算数・国語でも多学年合同授業を実施している。体育は、ほぼ100%低・中・高学年で授業をしている。

生活科の「学校探検」などでは、先輩の2年生が教える役、1年生が教えてもらう側と、役割分担しながら和気あいあいと授業に取り組んでいる。

5限で下校する日の低学年は、希望者が集まり、宿題や課題プリントに取り組み自主学習も行っている。

また、高学年では、4・5・6年関係なしに、自分のできそうな算数プリントに取り組み時間もあつたこと。



## ■存続に向けて

冒頭に記載のとおり平成26、27年度は、地域外から入学者を確保できたが、平成28年度の入学者は、天見地域在住の4人のみとなった。

平成12年度に小規模特認校の制度が始まって以来、地域外からの入学がないのは初めてではないだろうか。

もちろん、在校生の弟妹関係が少なかったというような要因も考えられるが、今後は、児童数の確保、小学校の存続に向けて、新たな歩みを考えなければならぬ時期なのかもしれない。



※編集にあたり、岸勝彦元校長（平成28年3月で退任）より、情報提供をいただきました。ご協力ありがとうございました。